

ぶらり あぶ急 の駅

vol.1
新田駅



しずりべって
何なん？



しずりべって、何なん？
そもそもこの企画は新田駅のキャッチフレーズ「瀬戸の郷」の「しずりべ」って何なんという疑問から始まっています。というわけで、第1回目は新田駅の「瀬戸の郷」から。静戸とは織物を織る戸を意味するらしく、伊達地方は古くから静戸郷と呼ばれる養蚕の一大産地であり、非常に品質の良い多くの生糸を京都へ運び、有名な西陣織などに使われていたそうです。私の

シティプロモーション担当、京都府出身の奥村です。このコーナーでは、伊達市内にある阿武急の10駅それぞれに付けられたキャッチフレーズのいわれや縁のあるもの、場所を紹介합니다。



地域おこし企業人 奥村 明史

出身地の京都と伊達地方が昔から生糸で繋がってたんですね。急に身近に感じ、この地に来たことに何かの縁を感じました。

世界を支えた伊達の静戸

幕末期から明治初期には横浜へ運ばれた生糸が、当時、蚕の微粒子病がまん延し養蚕業が壊滅的な危機を迎えていたヨーロッパや、アメリカから来た商人に非常に高く評価され、当時の日本の主力産品として海外へ輸出されていたとの記録があります。奈良・平安時代から続く伊達の静戸が、明治の日本の輸出産業、世界の生糸産業を支えていたとは、すごいで伊達の静戸！

世界を支えた伊達、
すごいやん！！



田園風景に想いを馳せて：

いま新田駅に降り立つと、田園風景と吾妻の山々が見え、反対側は整備された住宅街が広がっており静戸郷の面影は見当たりませんが、新田駅のキャッチフレーズは、確かにそこに当時の世界の生糸業を支えていた「瀬戸の郷」があったということを静かに記しています。その景色にたまには養蚕が盛んだった古の静戸の郷の姿を想像してみてもいかがでしょうか。

